

政策名	1グローバルロジスティクスの港		責任者	港営部 港湾利用高度化担当課長	連携担当課 (港営部)港営課
基本施策名	01国際・国内海上輸送機能の強化				
個別施策名	02既存コンテナ機能を再編・強化する		連絡先	052-654-7964	
事務事業名	03飛島ふ頭におけるゲート機能集約の事業化				

1 PLAN(目的・概要)

目的	飛島ふ頭におけるゲート機能集約の取組方針を確立し、事業化につなげます。	事業期間	平成20~25 [※] 年度 <small>※「その他特記事項」</small>
概要	コンテナターミナルの更なる効率化を図るため、飛島ふ頭におけるゲート機能集約について関係者との調整を行います。	根拠法令・要綱等	
		実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

2 DO(実施)

22年度の実施内容 【及び23年度の実施予定】		・ゲート機能集約の事業化に向けては、国及びコンテナターミナル運営者と調整を行い、全額国費による「集中管理ゲート」が整備されました。 ・23年度は、集中管理ゲート運用によるコンテナ物流の効率化を検証するため、関係者と調整します。							
活動指標		19	20	21	22	23	最終目標	25	備考(指標の算定方法など)
検討会・作業部会の回数	単位	目標		5	5	5	6	-	事業の具体化に伴い、作業部会が開催されることとなったため、活動指標に加えしました。検討会3回、作業部会3回
	回	実績		5	6	7			
事業費	単位	目標							
		実績							
人員	正規職員	単位	千円		4,305	0	0	0	
			人		1.50	1.60	1.00	0.60	
人員	嘱託職員	単位	人		0.00	0.00	0.00	0.00	
			千円		13,155	13,731	8,481	5,260	
事業費・人件費の合計		千円		17,460	13,731	8,481	5,260		

3 CHECK(検証)

決算ベース(H22は見込) ← 予算ベース

成果指標		年度	19	20	21	22	23	最終目標	25	備考(指標の算定方法など)
ゲート機能集約の事業化	単位	目標		-	-	-	-	-	1	
	式	実績		0	0	0				
	達成率(%)			-	-	-				
	単位	目標								
		実績								
		達成率(%)								
観点		課題の有無	現状の「見える化」						その他特記事項	
必要性	組合関与の必要性	有・無	・飛島ふ頭のコンテナターミナルについては、4ターミナルのうち2ターミナルが公共ターミナルであり、公共ターミナルの管理者である港湾管理者として関与する必要性は高いと考えます。						※目標年度は、集中管理ゲートの整備完了年度まででしたが、22年度に全額国費で施設が整備され、23年度から3年間効果の検証を行うことになったため、事業化の目標年度を24年度から25年度に修正変更しました。	
	目的・水準の妥当性	有・無								
	利用者などの対象者ニーズ	有・無								
有効性	成果の達成度	有・無	・全額国費により整備された「集中管理ゲート」を運用していく中で、施設の有効性や効果について検証していきます。							
	内容の妥当性	有・無								
効率性	実施主体の妥当性	有・無	・国が開催する検討会や作業部会を活用し、事業化につなげるための施設の有効性や効果の検証を行うことから、効率的、経済的であると考えます。							
	受益者負担の適正性	有・無								
	経済性	有・無								

4 ACTION(取組)

今後の事務事業の方向性	今後の取組の方向性		今後の取組の方向性の判断理由
継続	成果	コスト	国のモデル事業について事業の有効性及び効率性などの効果の検証を充分に行っていく必要があるため。
	維持	維持	
今後の取組内容(改善策、スケジュールの建て直し等)			

23年4月から運用が開始され、順次取扱貨物を増やしながら、効果の検証を進めており、トレーラーの動線変化に伴う周辺道路の改善の必要性など、関係者で構成する作業部会において検討を進めます。